

レントゲン検査について

大泉 News Paper vol. 45 (2010. 10. 1発行)

こんにちは！随分涼しくなってきましたね。今年の夏は暑く、最近の気温の変化で体調を崩される方も多かったのではないのでしょうか？

「健康診断や歯科などでレントゲン検査があるのですが、受けても大丈夫ですか？」という質問を受けることがあります。卵子や赤ちゃんへの影響が心配ですね。

レントゲン検査を受けることによってどのような影響があるのか、今回はお話ししたいと思います。

まずは私たちの身体への影響ですが、人間には放射線によって損傷した細胞を修復・再生する能力があります。

そして、私たちは日常生活の中で自然界から知らず知らずに放射線を浴びています。

宇宙や大地から浴びる放射線量は地域によっても違いますが、日本では平均して年間2.4ミリシーベルトと言われてています。

また自然界からの放射線を長期間少しずつ浴びた場合の影響は、同じ放射線を一度に浴びた場合に比べるとずっと小さいようです。これは先ほど述べた回復作用のおかげですね。

では、どの時期にレントゲン検査を受けたら良いのでしょうか？

一般的に「10日規則」といって、妊娠可能な女性のレントゲン検査は排卵前である月経周期の10日以内に行うことが望ましいと考えられています。つまりは妊娠を否定できる時期です。しかし、もし妊娠に気づかずに通常のレントゲン検査を受けてしまった場合でも、赤ちゃんへの影響は、基本的には発生しないと考えられています。

それでは実際にレントゲン検査の際に赤ちゃんの受ける放射線被曝量がどれくらいかについては次の表を参照してください。

表 放射線診断の際の胎児の曝線量(ミリシーベルト)

通常 100 ミリシーベルトで赤ちゃんに影響がでると言われています。

例としてあげると、肺のレントゲンや歯科でのレントゲンでの一回の被曝量は0.01ミリシーベルトなので、妊娠中に1万回以上検査を受けると、赤ちゃんへの影響が心配されます。

また胃のバリウム検査ですと、5.8ミリシーベルトなので3回以上の計算となります。

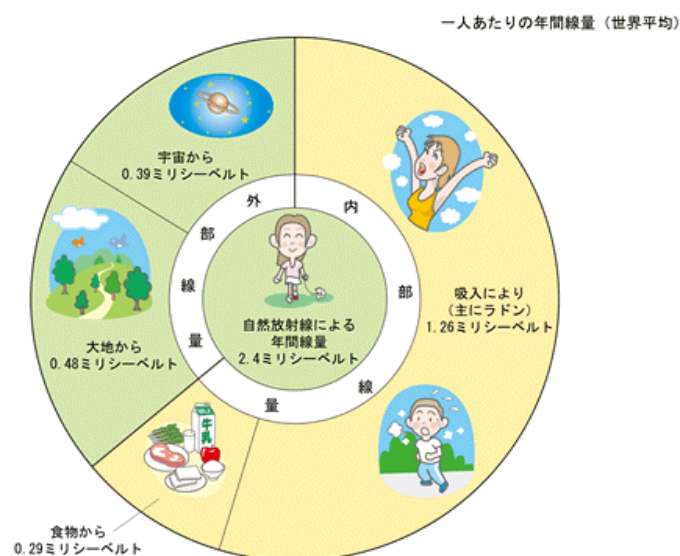
骨盤CTでも79ミリシーベルトなので、繰

り返し検査を受けなければ影響はほとんどないと考えられています。

検査の種類	最小	平均	最大
上部消化管	1.1		5.8
腹部	1.4	2.9	4.2
注腸造影	6.8	16	24
骨盤	1.1	1.7	4
頭部	0,01 未満	0,01 未満	0,01 未満
胸部	0,01 未満	0,01 未満	0,01 未満
頭部CT	0,05 未満	0,05 未満	0,05 未満
骨盤CT	25	26	79

これからママになろうと考えている方の健康管理は大切なことなので、健康診断は受けることをお勧めします。いかに通常のレントゲン検査は大丈夫といってもなるべく赤ちゃんへの被爆は避けたいものです。検査の時期を選び心配な方はレントゲン技師に相談し、放射線を遮断するエプロン（プロテクター）を腹部に付けてもらいましょう。

自然放射線から受ける線量



(参考文献) 草間朋子 放射線防御Q&A

<http://www.fepc.or.jp/learn/houshasen/seikatsu/shizenhoushasen/index.html>

http://www.geocities.co.jp/SweetHome-Brown/2111/s_index_x_p.html

担当：看護部 石井・川上

